



# 石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテストの取り組みについて

株式会社KSP大黒神奈川共同防災センター  
代表取締役 小松崎 勝美

「令和3年度石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」が実施され、弊社が最優秀賞（総務大臣賞）を受賞させていただくことができました。

これもひとえに日頃から横浜市消防局の皆様のご指導、弊社の株主である構成事業所各社のご協力があったからこそ賜物と深く感謝申し上げます。

今回の技能コンテストの取り組みについてご報告をする前に、弊社について簡単にご案内させていただきます。

## 会社概要

弊社は、1976年6月に施行された石油コンビナート等災害防止法（以下、石災法）に基づき特別防災区域として指定された京浜臨海地区のうち、鶴見川以西の横浜市域に事業所を有する会社の共同出資により1977年8月30日に(有)大黒神奈川共同防災センターとして設立されました。現在は、ENEOS(株)、大東通商(株)、日本埠頭倉庫(株)、横浜液化ガスターミナル(株)、保土谷化学工業(株)、鶴見倉庫(株)、内外輸送(株)、(株)築港、日産自動車(株)、(株)J-オイルミルズ、昭和電工(株)、三菱ケミカル(株)、(株)JERA（順不同）の全13事業所の出資をいただいています。

当センターは、石災法の定めるところにより、1978年7月と1979年7月の二段階に分けて消防自動車の防災資機材等および防災活動に従事する要員を配備し、常時その教育・訓練に努め、構成事業所の有事の際は公設消防機関ならびに各事業所の自衛防災組織と協力し、その災害の発生または拡大の防止に努めることを設立の目的とした共同防災組織（※）であります。2018年4月より、(株)KSP（本社：横浜市、総合警備業 <http://www.ksp-kokusai.co.jp/>）による運営形態となっています。

※ 一の石油コンビナート等特別防災区域において、二以上の事業所が共同して自衛防災組織の業務の一部を行うために設けられているのが、共同防災組織です。



弊社外観の様子



総務省での表彰式の様子



横浜市消防局での報告会の様子

## 「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」とは

石油コンビナート地域にある特定事業所の自衛防災組織の技能及び士気を向上させ、その地域の防災力強化を目的として、総務省消防庁が平成26年度から技能コンテストを行っています。

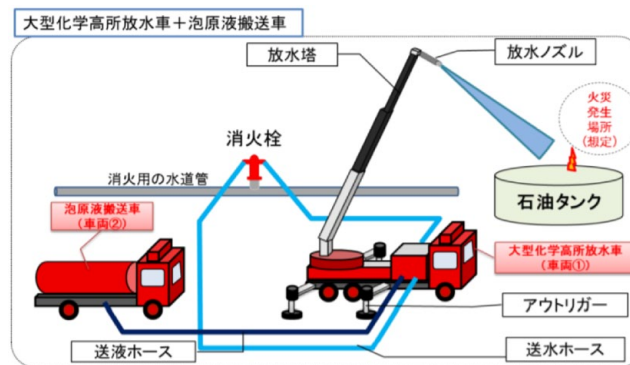
### 技能コンテスト概要

#### 1. 訓練の想定

特定事業所内の石油タンクで火災が発生したことを想定し、自衛防災組織の保有する消防車両を活用した消火活動競技です。

#### 2. 出場資格

全国の石油コンビナート等特別防災区域に設置されている自衛防災組織のうち、「大型化学高所放水車及び泡原液搬送車」又は「高所放水車及び化学消防車」を保有する自衛防災組織及び共同防災組織で、管轄する消防本部が推薦するもの。



#### 3. 競技要領（大型化学高所放水車及び泡原液搬送車）

指揮 中隊長

大型化学高所放水車小隊 小隊長、機関員、1番員、2番員

泡原液搬送車小隊 小隊長、機関員の計7名による大型化学高所放水車及び泡原液搬送車を使用した競技

#### 4. 予選の実施

予選は廃止（新型コロナウイルス感染拡大防止の為）

#### 5. 現地審査の実施

令和3年度は全国から32組織が出場

#### 6. 審査

消防庁特殊災害室の審査員2名が現地確認を行い、撮影したビデオをもとに審査

#### 7. 横浜市出場隊

横浜市区域3隊での輪番制

### 技能コンテストへの取り組みについて

#### 「環境の確立」

技能コンテスト参加にあたり、その環境を整えなければなりません。

現地審査・訓練の会場提供先、給水栓の使用、安全管理、訓練指導、時間、シフト等です。

これには横浜市消防局のご支援や構成事業所各社のご理解、弊社隊員の協力を得られることにより実現できました。

#### 「連覇へ」

弊社は3年に一度、この技能コンテストに参加させていただいております。過去の出場と実績は以下のとおり。（第1回は(有)大黒神奈川共同防災センターで出場）

- ・第1回 平成26年度 優秀賞（総務大臣賞） 出場33組織
- ・第5回 平成30年度 最優秀賞（総務大臣賞） 出場42組織

過去二回出場し、幸運にも優秀賞、最優秀賞と二度の総務大臣賞を受賞させて頂きました。

今回も目指すところは最優秀賞（総務大臣賞）受賞であるのはもちろんなのですが、出場したすべてが総務大臣賞であるという組織、さらに、最優秀賞を連覇（参加していない年を除く）している組織はいないということで、私たちは「連覇」を目標として様々な課題に取り組んでいきました。

前回の出場は、40歳代の隊員が中心の選抜でした。しかし、今回は前回出場していない50歳代の隊員を中心に出場しました。連覇を目指すのに何故、前回の選手で臨まないのか？

これには、過去の技能コンテストにおいて、横浜市消防局の指導により、選手一人一人が飛躍的に成長させて頂いたことから、石油コンビナート等特別防災区域での活動や操作の安全性・確実性・迅速性、思考、判断、技術の応用など、すべての隊員がその知識や経験を体得することが出来れば、日頃からお世話になっている構成事業所各社の皆様の安全・安心につながると考えたためです。

### 「心・技・体」

しかし連覇とは、言葉でいうほど簡単なものではありません。そのためにまず始めたのは、徹底した基礎訓練、そのあくなき反復と探求です。地味な基礎訓練ほど大変ですが、とても大切なことと考えています。弊社では全員が機関員、基本的なこと技術的なことは出来て当たり前。そういった環境で、互いを意識し、人の何倍も努力をすること。互いを尊重し、助け合っていくこと。そしてなによりも、どんな困難にも負けない、あきらめない心の持ち方が重要であること。また、体力錬成は勿論、新型コロナウイルス感染防止、熱中症対策なども正しく理解し、対策することで体調管理にも留意しました。これらを管理者に言われてやるのではなく、選手一人一人が自発的に行ってきました。

### 「訓練方針と取り組み」

横浜市消防局のご指導は、(株)JERA横浜火力発電所の敷地をお借りして、8月下旬から2時間を12回、現場での口頭指導とその後、動画で一人一人の動きをメールで指導して頂くもので、それは大変なご苦勞であったと思います。(通し1本10分×4台のカメラ×7名分×通し2本)

内容は実行から修正、元に戻したり、修正したりと、それぞれの意見を聞きながら試行錯誤の連続で、訓練指導者と選手に互いの信頼関係がなければ成立しません。

1本を大切に。「訓練は災害のように、災害は訓練のように。」集中力は心身ともに疲弊させるので、ヒューマンエラーに気を配り、無理はしないさせない、事故やケガなどが無いように、チームで呼吸を合わせました。

### 「日本一のチームとは」

日頃から隊員各位には段取り八分を心掛けさせています。どのような事も事前の準備とその意識で勝負は決する。事前の準備とは車両や資機材など訓練の準備だけでなく、どんな小さな事柄にも気を配ることができる、心に余裕を持った隊員の育成を目指しています。

今回は「日本一のチーム・日本一の隊員とはどんな人たちなのだろう？」との問いに各々が考え、行動することで、プライベートにおいても意識して過ごすようになりました。

### 「感謝」

#### 第8回 令和3年度 最優秀賞（総務大臣賞）受賞 出場32組織

皆様からの多大なるご支援を賜り、この度、栄えある最優秀賞（総務大臣賞）受賞の連覇（参加していない年を除く）を達成し、出場したすべての技能コンテストで総務大臣賞を受賞することができました。心より厚く御礼申し上げます。

横浜市消防局の皆様、(株)JERA横浜火力発電所発電運営グループの皆様には毎回の訓練と現地審査にご尽力いただきましたこと、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

このたび得た経験は、弊社にとってかけがえのない財産となりました。今後これにも増して石油コンビナート等特別防災区域の防災の要となり得るように、さらに努力・精進して参ります。

